

大分市地域まちづくりビジョン

野津原地域ビジョン会議 通信

第2号

発行：野津原地域ビジョン会議事務局

この通信は、地域ビジョン会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域ビジョン会議の目的

本市においても、今後、人口が減少に転じることが予測され、地域コミュニティの活性化や効率的な行政運営など諸課題への対策が求められています。

これら課題の解決には、行政が市民の意向や地域の実情を的確に把握し、市政への反映に努めることが重要です。

このような中、市内13地域において、地域の代表者等で構成する『ビジョン会議』を設置し、議論を深めそれぞれの特性を踏まえた「地域まちづくりビジョン」としてご提言いただきます。

第2回野津原地域ビジョン会議



■平成29年8月4日（金）10:00～

■野津原市民センター 2F 大会議室

開会

一、議事

1. 第1回ビジョン会議の整理

- ・委員発言要旨のまとめ
- ・地域ビジョン会議通信の発行について

2. これからのまちづくりについて

- ・都市計画マスタープラン
- ・立地適正化計画

3. グループワーク

～まちづくりを進めるための「コンセプト」を導く～

二、その他

閉会

これからのまちづくりについて

事務局よりこれからのまちづくりについて各計画の説明を行いました。

1. 野津原地区における都市計画について（都市計画マスタープランの概要）

本地区は、全体の8割近くを森林が占める壮大な自然に恵まれた中山間地帯で、起伏に富んだ谷間の限られた空間に集落が点在しており、その周囲には棚田をはじめとする壮大な農村景観・自然景観が広がっています。

本地区では国指定重要文化財である後藤家住宅や熊本肥後藩の参勤交代道路として発展した今市の石畳など、由緒ある歴史的資源を有しています。

また、地区中央部では大分川ダムが建設中であり、交通面での脆弱性の解消や防災面の強化を一体的に図ることが期待されています。

このようなことから、都市計画マスタープランにおいて本地区は「清流と歴史を活かした交流拠点の形成」をまちづくりの目標としています。

2. 大分市立地適正化計画について

大分市では、昭和39年の新産業都市の指定後、急激な商工業の発展と人口増加にあわせて、市街地が拡大し、都市基盤施設の整備などを推進してきたことにより、拡散型の土地利用が進行してきました。そのため、今後、少子高齢化等の進展による人口減少および人口密度の低下に伴い、税収の減少による財政規模の縮小、生活利便施設や公共交通の縮小、地域コミュニティ機能の低下等が予測され、人々の暮らしに様々な影響を及ぼすことが懸念されます。

高齢者や子育て世代にとっては、安心できる健康で快適な生活環境を実現すること、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を行うこと、公共交通等の効率化により低炭素型の都市構造を実現すること、災害から人命を守ることを推進していくため、都市の基本構造の在り方の見直しを行うなどの集約型都市構造へと転換する必要があります。

以上のことから、都市機能や居住の誘導に関する具体的な方策の検討を行い、都市再生特別措置法第81条に基づく「立地適正化計画」について、平成30年度末の公表を目指して作成を進めています。



グループワークの流れ



【ステップ1】重みづけ(地域が重点的に取り組む施策の傾向を読み取る)

委員の皆様には、2班に分かれていただき、大分市総合計画の6つの「基本的な政策」に対し、ふだん気になることや問題に思っている重点項目に一人5枚のシールを貼って頂きました。

《1班:ななせ班》 班長:裸野委員より発表

「ななせ班」から発表させていただきます。福祉につきましては、子育て支援の充実と高齢者福祉の充実が多く、やはり皆さんが気になっていることだと思います。教育と文化の振興の中で、豊かな文化芸術の創造と発信に2ポイントが入っているのは、野津原にある文化財をうまく活用していきたいという考えがあるのではないのでしょうか。防災に関しては、シールがあまり貼られていないですが、産業の振興につきましては、シールが多く貼られています。農業林業の振興と、流通拠点の整備に4ポイント入っています。都市基盤の形成につきましては、計画的市街地の形成、交通体系の確立に3ポイント入っていて、環境の保全につきましては、豊かな自然の保全と緑の創造というところに3ポイント入っております。

【ポイントを多く入れた項目】

- 子ども・子育て支援の充実・高齢者福祉の充実・障がい者(児)福祉の充実・・・(5)
- 農業の振興・林業の振興・水産業の振興・・・(4)
- 流通拠点の整備・・・(4)
- 豊かな自然の保全と緑の創造・・・(3)
- 計画的な市街地の形成・交通体系の確立・・・(3)

項目	シール数
1. 子育て支援の充実	5
2. 高齢者福祉の充実	5
3. 教育文化の振興	2
4. 産業の振興	4
5. 流通拠点の整備	4
6. 都市基盤の形成	3
7. 環境の保全	3



《2班:みどりの班》 班長:秋吉委員より発表

「みどりの班」です。まず子ども子育て支援の充実・高齢者福祉の充実などに、若いお母さん方もいますので、全員がシールを貼っております。次に以前から取り組んでいます、地域コミュニティの活性化にも多くシールを貼っております。全体的に見たら教育文化の項目に重点的にシールが貼られております。学校統合等ではいろんな議論がされていたり、Nスポーツクラブという総合型地域スポーツクラブがあるので、関心を持たれているのかなと思います。防災安全は治山治水対策と交通対策にシールがあります。野津原は急峻な地形が多いので関心があるのかと思います。それからぎわいの部分で産業の振興ですが、第一次産業が主でありますので、農業の振興に3ポイントあります。あと観光の振興にシールが少ないと思っているのですが、1ポイントあります。都市基盤は交通体系が確立されていないので、ここに2ポイントあります。

【ポイントの多く入った項目】

- 子ども・子育て支援の充実・高齢者福祉の充実・障がい者(児)福祉の充実・・・(6)
- コミュニティの活性化・・・(5)
- スポーツの振興・・・(4)
- 農業の振興・林業の振興・水産業の振興・・・(3)

項目	シール数
1. 子育て支援の充実	6
2. 高齢者福祉の充実	6
3. 教育文化の振興	5
4. 産業の振興	3
5. 流通拠点の整備	2
6. 都市基盤の形成	2
7. 環境の保全	1



【ステップ2】ブレインストーミング(思いついた地域の魅力や課題を書き込む)

【ステップ3】親和図作成(問題点と課題点の整理)

各班で、思いついた地域の魅力や課題をポストイット(付箋紙)に書き込み、親和図に共通点を施策単位でまとめ、コンセプトを考えました。

《1班:ななせ班》 施策毎のポストイットの内容

- **福祉** 「高齢者寄り添う心温かいななせ」・・・(4)
「高齢率が高くなってきているから(高齢者福祉の充実)」「地域のコミュニティが充実することで住みやすくなる」「地域福祉推進 小学校跡地を活用」 他
- **教育・文化** 「統合後も地域とともに支える教育環境の充実」・・・(6)
「小学校が統合されるから学校教育の充実」「少子化しているけれども教育はやはり充実して欲しい」「子どもを大切に」「豊かな心 伝統文化の継承」「子どもと地域の方が交流する場がない(今市)」「子どもの登下校の安全性」 他
- **防災** 「地域で支える防災」・・・(4)
「地域消防 エリア内の充実」「防災力の向上 治山治水対策 危険箇所の解消事業」「消防、救急体制の充実」「ひとり暮らしの高齢者が増えているので緊急時における救急体制の充実」
- **産業** 「道の駅に農産物とジビエを」・・・(10)
「名所、旧跡をもっと活かしてほしい」「中山間地の農業の活性化」「豊後牛の PR」「無農薬野菜を作り販売する。有機農業を推進する」「県民の森にアスレチックが出来るとうれしい」「石畳を活かした地域活性化」「農地を利用 都市との交流」「大分市民の森のイベント」「にぎわいを作るため観光」 他
- **都市** 「R442の整備」・・・(9)
「親子で楽しめる公園などの整備」「道路を整備することで住みやすくなる」「地域の拠点となるダムと交流拠点の整備」「計画を持ったまちづくり インフラを含む」「三世帯同居」「空き家の対策」「都市基盤 国道 442 号整備」 他
- **環境** 「ねこバスが通る環境(ほたるの飛ぶななせ)」・・・(2)
「ほたるが飛ぶ街を PR したい」「自然豊かな町をより他地域の方々に PR 出来たら」



《2班:みどりの班》 施策毎のポストイットの内容

- **福祉** 「住む人にやさしいまちづくり」・・・(7)
「健康で長生き健康寿命」「安否確認のためコミュニケーションが必要と思う」「ボランティア精神を皆さんに植え付ける方法を考える」「子育てがしやすいように高齢者がすみやすいように」「子どもが少ないからこそ大切に育てていることを伸ばしたい」「少子高齢化が進む中地域コミュニティが必要」「コミュニティが野津原のよいところ」
- **教育・文化** 「つながる! 地域、学校、子ども~地域で育てるのつはる大好きな子ども~」・・・(9)
「スポーツ振興のためには体育館が絶対に必要だ」「学校統合により地域の中心が失われている」「統合するからこそ今まで以上に充実した学校教育に!」「親子でのスポーツ交流」「通学路が遠い」「文化財の保全」「地域資源(史跡、民話、伝統芸能)が多い」「小学校区が広がるので地域と学校をつなげる人が必要」「子どもたちの教育に恵まれた環境をよりよいものに」
- **防災** 「思いやり持って守ろう安心・安全」・・・(4)
「子どもの安全確保」「災害時の避難」「防災組織を充実させること 自治区毎に」「災害時高齢者が安全に避難できる体制づくり(声かけ、場所、移動手段)」
- **産業** 「食べて飲んでおいしいやさしいものづくり」・・・(5)
「野津原の基盤は第一次産業」「特産物が少ない」「農林業が中心であったのに衰退している」「農業用水が少ない(不便)」「交流拠点で地域作り」
- **都市** 「ひとにやさしいインフラ整備」・・・(8)
「交通の便が悪い(公共交通)」「高齢化になるとバス等が今では不便」「イントラネットの活用」「高齢者が利用しやすい交通(乗合タクシー)などができるといい」「バスが近くまで来ない、病院や買物に行く時に車がないと動けない」「交流拠点は道の駅登録を目指し、名前は「道の駅のつはる」が良いのではないかと」「テレビの難視聴地域が多い」「通信に関して光ケーブルが無い」
- **環境** 「100年後ものつはるの豊かな自然を残そう」・・・(3)
「国道 442 号の整備」「ダム関連の整備」「七瀬川の自然環境」



まちづくりのコンセプト(理念)成果発表

各班長がそれぞれの意見を取りまとめて導いたコンセプト(理念)発表をおこないました。

《1班:ななせ班》

コンセプト: **ダムに夢を森といやしの里ななせ**

本日はグループ協議に大変熱が入りまして色々な意見がでました。福祉の分野につきましては、高齢者率が高くなってきているので、高齢者福祉の充実が必要でないかという意見もありますし、地域福祉の推進、小学校跡地の活用というような案もでました。全体的には「高齢者に寄り添うところ温かいななせ」というキャッチフレーズを作りました。教育文化につきましては、小学校が統合されるので「統合後も地域と共に支えあう教育環境の充実」というキャッチフレーズを作りました。防災安全につきましては、色々な災害が起こっているなかで、やはり地域で皆さんの生命などを守っていくのが大事ということで「地域で支える防災」というキャッチフレーズになりました。産業につきましては、やはりダムができますし、交流拠点もできます。そのような状況で野津原にとって農業というものが重要になってくるのだらうと思います。交流拠点は道の駅登録を目指し、大分市民を野津原に呼び込むため、「道の駅に農作物とジビエを」というキャッチフレーズになりました。都市基盤につきましては、最重要課題ということで、国道442号の整備拡張を早急にという意見が多いのでそれをまとめました。環境につきましては、ホテルが飛びまちなをPRしたい、自然豊かな町をPRしたいという意見がでるなかでキャッチフレーズを作りました。全体を通して「ダムに夢を森といやしの里ななせ」というコンセプトになりました。



《2:みどりの班》

コンセプト: **食べて見て人にやさしいみどりの のつはる**

「ななせ班」と重なる部分が多いのですが説明いたします。福祉ですが、子育てから高齢者福祉でいろいろ意見が出ましたが、全体的にまとめて「住む人にやさしいまちづくり」となりました。教育文化では、小学校の統合問題などありますが、次世代を担うのは子どもたちなので、キャッチフレーズとして「地域で育てる、のつはる大好きな子ども」になりました。防災安全では、野津原は地形的に厳しい状況でありますので、「みんなで学ぼう防災知識」となりました。産業の振興では、野津原は第一次産業がメイン産業でありますので、「食べて飲んでおいしいやさしいものづくり」というキャッチフレーズになりました。都市基盤では、国道442号が整備されておらず、交通体系、公共交通の便も悪いので「ひとにやさしいインフラの整備」というキャッチフレーズになりました。環境につきましては、「100年後ものつはるの豊かな自然を残そう」ということになりました。コンセプトは、堅いイメージでなく優しく作ろうと意識して「食べて見て人にやさしいみどりの のつはる」というコンセプトになりました。

